



TH-1200 シリーズ

サーマルフローメータ検出器

IM-F2137-J00

取扱説明書



このたびは弊社製品をご採用いただき誠に有り難うございます。
本書はTH-1200シリーズサーマルフローメータ検出器の設置、運転、保守などについて記述したものです。
設置時、運転時に必ずご一読下さいますようお願いいたします。尚、本書では検出器について記述してあります。
組み合わせ変換器については下記取扱説明書をご参照ください。

変換器形式	該当取扱説明書番号
TRX-600	IM-F2125
TRX-700	IM-F2127
TRX-900	IM-F2129

TH-1200 シリーズ

サーマルフローメータ検出器

目 次

1. 本書の表記上のルール	1
2. 使用上のご注意	1
3. 取扱い上の注意事項	2
3.1 形式と仕様確認	2
3.2 運搬についての注意事項	2
3.3 保管についての注意事項	2
3.4 設置場所	3
3.5 安全上のご注意	3
4. 概要	4
4.1 概要	4
4.2 特長	4
4.3 標準仕様	4
4.4 形式コード表	5
4.5 外形寸法	5
4.6 流量レンジ	6
4.7 システム構成	7
4.8 組み合わせ変換器形式コード一覧	8
5. 設置	9
5.1 配管	9
5.2 必要直管長さについて	9
5.3 検出器の設置	10
6. 配線	10
6.1 標準付属ケーブル	10
6.2 配線について	10
7. 運転	10
8. 保守	11
8.1 保守用機器	11
8.2 検出器抵抗チェック	11
8.3 検出器抵抗異常時の故障内容について	11
8.4 検出器洗浄	11
9. 測定原理	12
10. 流速・流量精度について	13

1. 本書の表記上のルール

安全に関する表記

本書では安全に関する注意事項を次の表示によって区分しています。



この表示を無視して誤った取扱いをすると、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



この表示を無視して誤った取扱いをすると、本装置の破損または付帯設備等の物的損害の発生が想定される内容を示します。

一般情報に関する表記

本書では一般情報に関する注意事項を次の表示によって区分しています。



この表示は製品の取扱い上、必要不可欠な操作や情報を示しています。



この表示は本製品を安全・快適に使うために是非理解していただきたい内容を示しています。

(→P.○○)

注意事項とは別に参照していただきたいページがある場合に表示します。

2. 使用上のご注意

一般的注意事項



本製品は工業用計器として最善の品質管理のもとに製造、調整、検査を行い納入いたしております。みだりに改造や変更を行うと本来の性能を発揮できないばかりか、不適合や事故の原因となります。改造や変更は行わないでください。改造や変更の必要がある場合は当社までご連絡ください。



納入仕様書に記載された仕様、流体圧力、温度の範囲内での使用を厳守してください。この範囲を超えた条件での使用は故障、破損の原因となります。



運搬、保管の際に破損、故障のないよう、また水、ゴミ、砂などの混入のないようご注意ください。



本製品は工業計器としての用途にのみ使用し、その他の用途には使用しないでください。

材質について



本製品の材質については納入仕様書に記載されています。当社でもお客様の仕様をお伺いし最適な材質選定に努めておりますが、実際のプロセスにおいては混入物などもある場合があります、万全でないこともあります。最終的な耐食性、適合性のご確認はお客様の責任でお願いいたします。

保守、点検について



本製品を保守、点検などのためにプロセスから取り外す際は、測定対象物の計器内への残留に注意してください。測定対象物に腐食性や毒性がある場合は、作業者に危険がおよびます。



本製品の保守、点検については使用条件などによりその周期、内容が異なります。取扱説明書を参照するか、お客様が実際の運転状況を確認してご判断願います。

制御の安全性について



本製品は工業計器として最善の品質管理のもとに製造、調査、検査を行い納入いたしておりますが、各種の原因で不測の故障が発生する可能性もあります。安全上の重大な問題が発生する可能性のあるプロセスコントロールなどにおいて本製品を使用する場合は、万一に備えて本製品に加えて同様な機能を果たす機器を併設し、二重化を行うことにより一層の安全性を確保してください。

3. 取扱い上の注意事項



サーマルフローメータは、熱伝達現象に基づく独創的な測定原理により配管またはダクト内を流れる気体の流量を高精度で測定する弊社オリジナルの熱式質量流量計です。本機は工場にて十分な検査を実施した後出荷しておりますが、念のため本機がお手元に届きましたら、まず始めに外觀チェックを行い有害な損傷がないことをご確認ください。本書は、サーマルフローメータの正しい取扱い方法および使用上の注意事項について説明しております。実際にご使用になる前に必ずご一読のうえ、本流量計を正しく取扱いください。また、本書はお読み頂いた後も大切に保管してください。尚、お問い合わせ事項等がありましたら、お買い求め先あるいは本書最終頁に記載の最寄り弊社営業所までご連絡願います。

3.1 形式と仕様確認

変換器上面または側面のFLOWMETER銘板および検出器本体側面のPICKUP銘板(図3.1参照)に記載されております形式および工番(MFG. No.)と別送の納入仕様書仕様欄を対応させ、ご注文通りであることをご確認ください。尚、お問い合わせの際は、このFLOWMETER/PICKUP銘板または納入仕様書に記載されております工番(MFG.No.)および形式(TYPE)をご連絡願います。(※工番は弊社受注製品の管理番号です。)

FLOWMETER	
TAG NO.□	
MODEL□	
MFG. NO.□	
DATE	
TOKYO KEISO CO., LTD□	
□	MADE IN JAPAN

PICKUP	
TAG NO.□	
MODEL□	
MFG. NO.□	
□	TOKYO KEISO CO., LTD□
□	MADE IN JAPAN

図3.1 銘板の例

3.2 運搬についての注意事項



注記

本製品は精密機器につき、運搬時における取扱いには十分注意願います。運搬中の事故による損傷および検出器の汚れ防止のため、なるべく弊社出荷時梱包状態のまま設置場所まで運搬願います。

3.3 保管についての注意事項



参考

本機のような精密機器の場合、お手元に届いてから設置するまでの期間が長くなると、思いがけないことから腐食や電気系統の絶縁劣化等の不具合が発生することが考えられます。あらかじめ長期の保管が予測される場合には、下記項目に配慮願います。

- 1) 流量計および付属ケーブル類はなるべく弊社出荷時の梱包状態にて保管してください。
- 2) 保管場所は、下記条件を満足するような場所を選定してください。
 - ・雨や水のかからない場所
 - ・振動や衝撃の少ない場所
 - ・周囲温度：0～60℃(急激な温度変化のない場所)
 - ・湿度：80%RH以下
 尚、保管場所の温度・湿度は、できるだけ常温・常湿度(25℃、65%RH程度)にて保管願います。
- 3) 一度使用した流量計を保管する場合下記事項にご注意願います。
 - ・センサー部に汚れがある場合は、汚れを除去してください。(8.4 検出器洗浄を参照願います)
 - ・センサー部の損傷を防ぐため、保護管または盲キャップ等でセンサー部を保護した後梱包等を行ってください。尚、検出器外周部は損傷を防ぐためエアークャップ等の梱包材で保護願います。(弊社出荷時の梱包状態に近い状態で保管願います。)

3.4 設置場所



注記

サーマルフローメータTHシリーズは、厳しい環境条件下においても正常動作するように設計されておりますが日常点検および保守作業の容易な場所を選定して設置してください。また、高精度かつ長期間安定してご使用頂くために下記事項を考慮して設置場所を決めてください。

- 1) 周囲温度(周囲温度範囲: 0℃～60℃)
温度勾配や温度変化の大きい場所に設置することはできるだけ避けてください。プラントから放射熱や輻射熱などを受ける場合は、断熱処理を施したり風通しのよい場所を選んで設置してください。
- 2) 雰囲気条件
腐食性雰囲気に設置することはできるだけ避けてください。尚、腐食性雰囲気中にて使用する場合は、風通しの良い場所やパージ環境の中でご使用ください。また、腐食性ガスが滞留するような場所においてご使用の場合には、長時間のご使用を避け、計測完了後速やかに腐食性雰囲気外の場所に移動させてください。
- 3) 衝撃・振動
検出器は、衝撃や振動に対して強い構造に設計されていますが、できるだけ衝撃や振動の少ない場所に設置してください。
- 4) ノイズ
本機をコンプレッサー、高圧電線、インバータ等のノイズ発生源の近くに設置することはできるだけ避けてください。サーマルフローメータ専用検出器～変換器間ケーブルは二重シールド線を使用するなどノイズ対策を十分行っておりますがケーブルが長いとノイズの侵入する恐れがあります。
- 5) その他
本機の上に乗ったり、重量物を乗せたりしないでください。また、不安定な場所に設置しないでください。

3.5 安全上のご注意



警告

- 1) サーマルフローメータのご使用中に煙が出たり、変なにおいや音がするなどの異常状態となった場合、直ちにAC電源を切り最寄りの弊社営業所にご連絡願います。異常状態のままご使用になりますと火災や感電の危険があります。また、お客様による修理は危険ですので絶対にお止めください。
 - 2) 検出器の分解および改造は、検出器の故障原因になりますので絶対しないでください。
 - 3) 検出器の電気配線部に雨水が浸入しないように注意願います。感電や故障の原因になります。
- ※検出器コネクターは防水構造となっておりますが、オス／メスコネクターカップリング状態で防水仕様になります。従って、検出器屋外設置の場合は、検出器に専用ケーブルを接続しないまま放置しないでください。万一、コネクター内部に雨水などが浸入いたしますとケーブルまたはコネクターピンの腐食原因になります。もし、検出器設置後配線までに時間がかかるようでしたら、付属の盲キャップまたはビニール袋などで雨水などから検出器を保護願います。
- 4) サーマルフローメータのご使用中(電源ON状態)にセンサーパイプを手で触れたり、金物で触れたりしないでください。感電や故障の原因になります。

4. 概要

4.1 概要

サーマルフローメータは、一般工業プロセス・ユーティリティライン、半導体製造設備、空調設備等に長年の実績と信頼性をもつ弊社オリジナルの熱式質量流量計です。TH-1200シリーズ検出器は、呼び口径：50Aから150Aまで6タイプ揃った、配管一体形(フランジ接続タイプ)検出器です。

4.2 特長

1) 高精度

独自の計測理論で各種ガスの流量を高精度で計測いたします。

2) ワイドレンジアビリティ

最大流速が0.5m/sの低流速範囲でも十分な実用計測精度があり、従来のオリフィス式やカルマン渦式流量計などの流量計測上の問題点をクリア致しました。

3) 高耐久性

可動部のないセンサー構造で長期安定性に優れています。また、可動部がなく構造が簡単なため、複合電解研磨処理などを施せばクリーン環境下でも安心してご使用頂けます。

4) 質量流量計測

東京計装(株)のオリジナルな熱伝達理論に基づくガス用熱式質量流量計です。また、理論的解析の確立した計測理論であるため、ほとんどの一般ガスに対して計測可能です。

5) 低圧力損失

センサー部は構造上、ほとんど圧力損失がありません。

4.3 標準仕様

標準仕様以外については、納入仕様書を参照願います。

《検出器仕様》

- ・対象測定ガス Air、N₂、O₂、Ar、He、H₂、その他非腐食性ガス*¹

*1) ダスト、ミストや腐食成分(塩素、酸、硫黄等)を含まない乾燥気体であること

- ・ガス別流量レンジ ガス別流量レンジは『4.6 流量レンジ表』を参照ください。*²

*2) その他記載のないガスについては弊社営業にお問い合わせください。

- ・流量精度 組み合わせ変換器により精度が異なります。

* TRX-600シリーズ : ±2.0% F.S.

TRX-700、900シリーズ : ±1.0% F.S.

- ・製作口径 標準：50A～150A
- ・流体温度 0℃～80℃(オプション0℃～180℃)
- ・検出器周囲温度 0℃～60℃
- ・流体圧力 真空(20 kPa(abs))～1.0 MPa
- ・材質 センサー部 SUS316(センサーパイプ)、
ライトンPPS
本体 標準：SUS3046
オプション：SUS316、SUS316L
シール材 標準：フッ素ゴム(Oリングシール)
- ・構造 防水密閉構造(IP65相当)
- ・塗装 ステンレス部塗装無し
- ・接続規格 JIS 10K F.F.(R.F.)フランジ、
その他継手

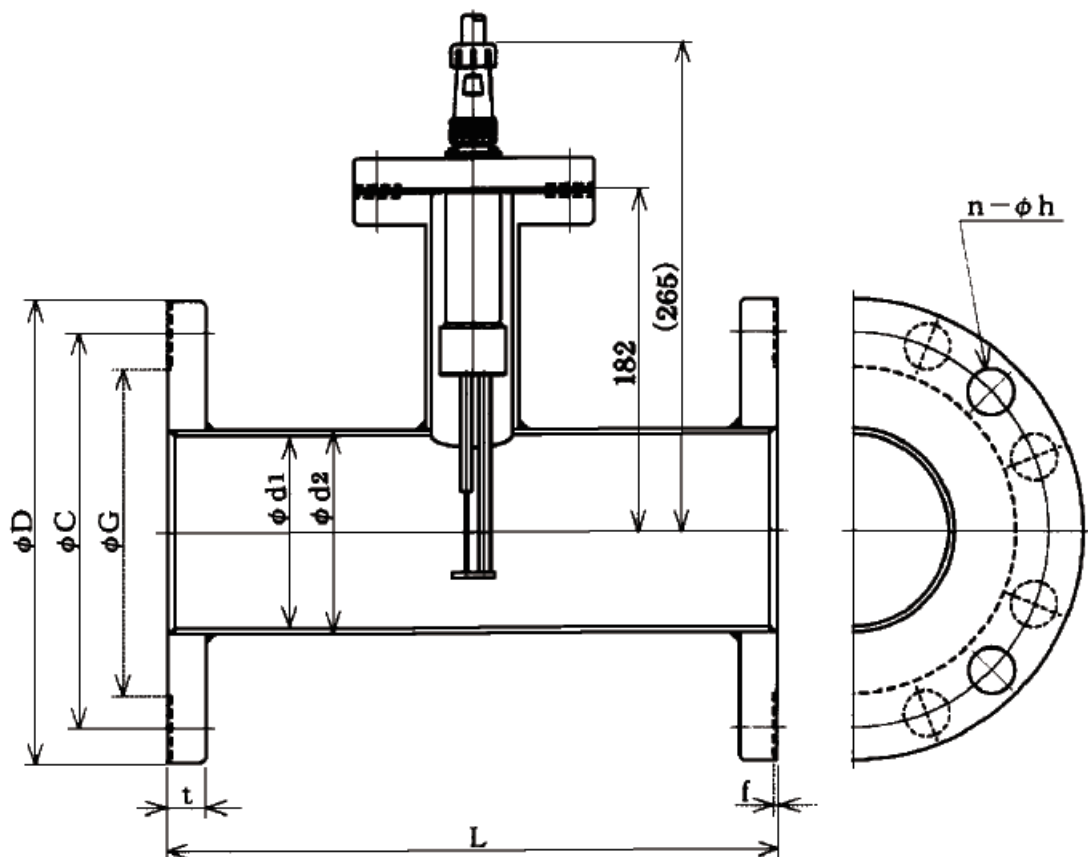
*詳細仕様については、納入仕様書を参照願います。

- ・圧力損失 0.1kPa以下：仕様により異なりますので
弊社営業にお問い合わせください。
- ・細管加熱電力 Max. 1.5W
- ・細管温度上昇 Max. 30℃(流体仕様により異なります。)
- ・電気接続 防水コネクター
(付属品：検出器～変換器間特殊専用ケーブル)

4.4 形式コード表

選択項目 TH-12	形式コード					内 容
	①	②	③	④	⑤	
① プロセス 配管口径	5					50A (2B)
	6					65A (2-1/2B)
	7					80A (3B)
	8					100A (4B)
	9					125A (5B)
	A					150A (6B)
② 検出器材質	1					SUS304
	2					SUS316
	3					SUS316L
	F					特殊
③ 接続規格			3			JIS10K フランジ
			4			ANSI 150 # フランジ
			F			その他
⑤ 特殊仕様						注 注) 標準品は未記入のこと。
						S 整流器付属
						E EP グレード：電解研磨処理 (センサー部除く)
						B BA グレード：BA 相当の電解研磨処理 (センサー部除く)
						T 温度計取付座付 (Rc1/8 タップ)
						W 端子箱タイプ
						C コネクタータイプ

4.5 外形寸法



注：詳細寸法は、納入仕様書を参照願います。

：標準フランジは、JIS10k F.F.またはR.F.フランジに準拠致します。

4.6 流量レンジ

■ TH-1200 [整流器を付加しない場合]

単位：m³/h(nor)

ガス 口径	AIR 空気	N ₂ 窒素	CO ₂ 二酸化炭素	O ₂ 酸素	Ar アルゴン	13A 都市ガス	CH ₄ メタン	C ₃ H ₈ プロパン	C ₄ H ₁₀ ブタン	NH ₃ アンモニア	He ヘリウム	H ₂ 水素
50A	45～ 840	45～ 840	25～ 1135	45～ 820	40～ 1675	40～ 545	50～ 550	15～ 540	10～ 440	40～ 800	5～ 34	5～ 30
65A	60～ 1395	60～ 1395	30～ 1885	60～ 1360	50～ 2775	50～ 905	65～ 915	20～ 895	10～ 735	55～ 1330	7～ 45	7～ 39
80A	70～ 1965	70～ 1965	35～ 2655	70～ 1915	60～ 3915	60～ 1275	75～ 1290	20～ 1260	15～ 1035	65～ 1875	10～ 53	10～ 47
100A	90～ 3385	90～ 3380	50～ 4570	90～ 3295	80～ 6735	80～ 2195	100～ 2220	25～ 2170	20～ 1785	85～ 3225	17～ 69	17～ 62
125A	115～ 5155	115～ 5145	60～ 6955	115～ 5020	100～ 10250	100～ 3340	120～ 3380	35～ 3305	20～ 2715	105～ 4910	26～ 85	26～ 78
150A	135～ 7360	135～ 7345	70～ 9940	135～ 7170	120～ 14640	120～ 4775	145～ 4830	40～ 4720	25～ 3880	125～ 7010	37～ 98	37～ 89

■ TH-1200 [整流器を付加した場合]

単位：m³/h(nor)

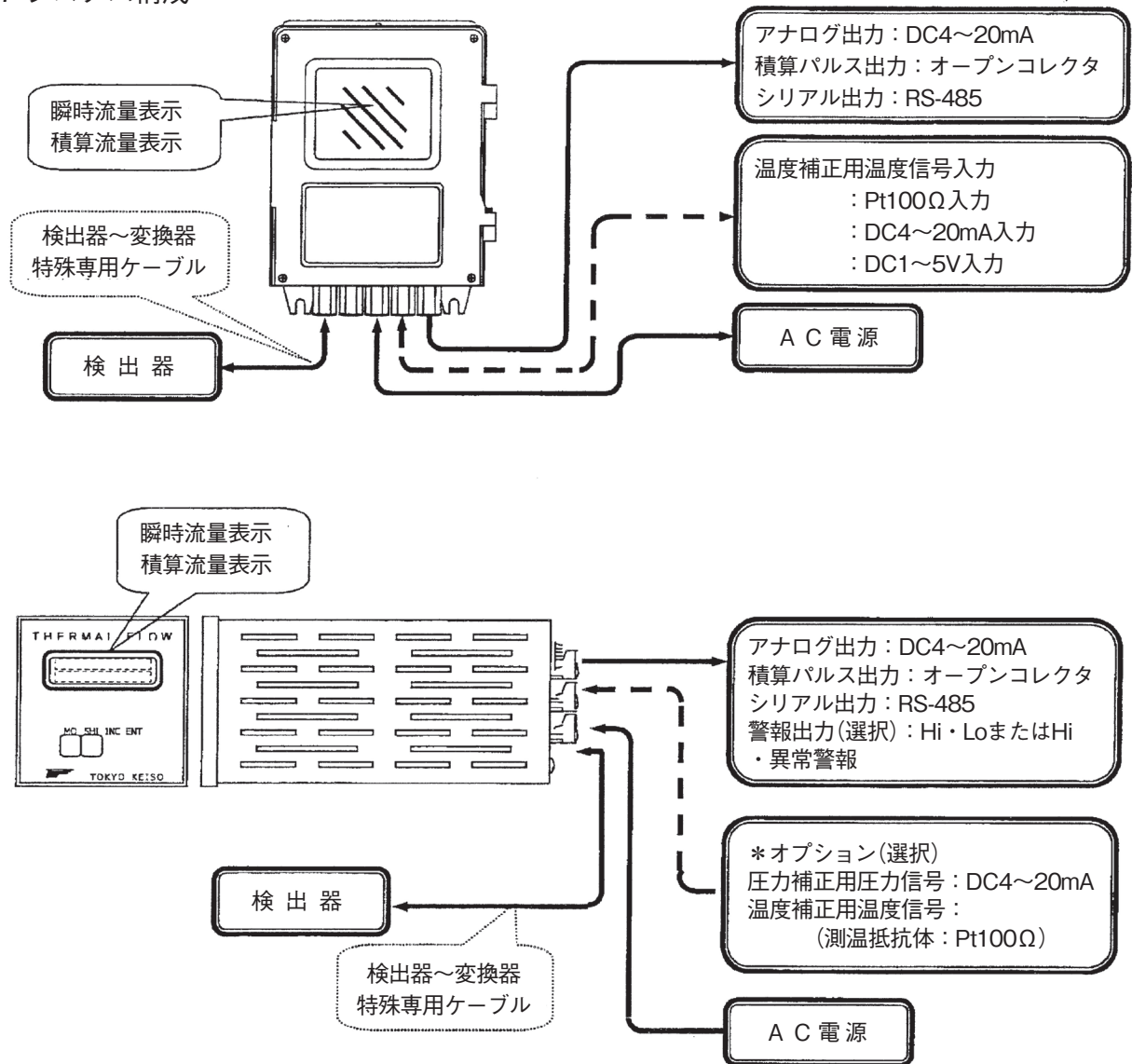
ガス 口径	AIR 空気	N ₂ 窒素	CO ₂ 二酸化炭素	O ₂ 酸素	Ar アルゴン	13A 都市ガス	CH ₄ メタン	C ₃ H ₈ プロパン	C ₄ H ₁₀ ブタン	NH ₃ アンモニア	He ヘリウム	H ₂ 水素
50A	5～ 285	5～ 285	5～ 385	5～ 275	0～ 565	5～ 185	5～ 185	5～ 180	5～ 150	5～ 270	5～ 99	5～ 61
65A	10～ 450	10～ 450	10～ 610	10～ 440	15～ 895	5～ 290	5～ 295	5～ 290	5～ 235	5～ 430	7～ 180	7～ 108
80A	10～ 690	10～ 690	15～ 930	10～ 670	20～ 1375	10～ 445	10～ 450	10～ 440	5～ 365	10～ 655	10～ 254	10～ 159
100A	15～ 1200	15～ 1200	20～ 1625	15～ 1170	30～ 2390	10～ 780	10～ 790	10～ 770	10～ 635	15～ 1145	17～ 428	17～ 267
125A	25～ 1810	25～ 1810	35～ 2445	25～ 1760	45～ 3600	15～ 1175	15～ 1185	15～ 1160	15～ 955	25～ 1725	26～ 645	26～ 403
150A	35～ 2605	35～ 2605	45～ 3520	35～ 2540	65～ 5185	25～ 1690	25～ 1710	25～ 1670	20～ 1375	35～ 2480	37～ 916	37～ 573



注記

- 流量レンジは、ご注文時に上記流量レンジ表の最小レンジ～最大レンジ間において任意に指定できます。
- 上記流量レンジ表に記載のない流体については、弊社営業までお問い合わせください。
- お客様にて整流器をご準備される場合、整流器の流速分布を考慮した校正を行う必要があるため、事前に弊社営業までご連絡願います。

4.7 システム構成



注記

上記図中の*印はオプションを示します。

変換器詳細仕様についてはテクニカルガイドス(TG-F2123)を参照願います。

機能 \ 形式	TRX-600	TRX-700	TRX-900
流量精度	± 2.0%F.S.	± 1.0%F.S.	± 1%F.S.
瞬時流量表示	○	◎	◎
積算表示	○	◎	◎
DC4～20mA出力	◎	◎	◎
スケールパルス出力	○	◎	◎
アラーム出力	×	◎	◎
シリアル出力	RS-485出力	RS-485出力	RS-485出力
温圧補正機能	○ (温度補正のみ)	◎	◎
電源	AC100、110、115、200、 220、240V 50/60Hz	AC90～264V 50/60Hz	
消費電力	約30VA		
ボックス構造	防水密閉 (IP65)	非防水 (IP20)	防水密閉 (IP65)
取付	壁・2Bパイプ取付	パネル取付	壁・2Bパイプ取付
最大ケーブル長さ 50m	50m	100m	100m

注) ◎：標準装備 ○：選択により装備可能 ×：不可

4.8 組み合わせ変換器形式コード一覧

本機と組み合わせ可能な変換器形式コード一覧表を下記に示します。

TRX-600

形式コード										内 容
TRX-6			—			—				
温度補正 (入力信号)	0									補正なし
	1									Pt100Ω測温抵抗体
	2									DC4~20mA温度信号
	3									DC1~5V温度信号
電 源	1									AC100V±10%
	2									AC110V±10%
	3									AC115V±10%
	4									AC200V±10%
	5									AC220V±10%
	6									AC240V±10%
ケーブル長	1									5m
	2									10m
	3									15m
	4									20m
	5									25m
	6									30m
	7									40m
	8									50m
配線接続口	F									その他
	1									G1/2
2Bパイプ取付金具	F									その他
	0									なし
オプション基板 (注) オプション機能が 無い場合は空欄	パージ制御入力	0								パージ制御なし
		1								オープンコレクタ(標準)
		2								接点入力
	パージ出力	0								パージ制御なし
		1								O.C.+接点出力
		2								O.C.+AC電源出力
	接点出力	1								フロースイッチ
		2								異常警報出力

(注) O.C.=オープンコレクタ

TRX-700／TRX-900

形式コード				内 容
TRXー	①	②	③	
①タイプ	7			DIN96×96 パネルマウント
	9			防水ハウジング、フィールド設置形
②温度・圧力補正	0			補正なし
	1			温度補正
	4			温度補正+圧力補正
③ケーブル長	1			5m
	2			10m
	3			15m
	4			20m
	5			25m
	6			30m
	7			35m
	8			40m
	9			45m
	A			50m
F			50m～100m ※ケーブル長ご指示ください。	

5. 設置



注記

- サーマルフローメータにダストやミストが混入した場合は正常に動作しないことがあります。
混入が避けられない場合は、直管長を確保して上流側にミストセパレータやフィルターを設置してください。

5.1 配管



参考

- サーマルフローメータの必要上下流直管長については、『5.2必要直管長さについて』を参照願います。
- 管路の上流側にバルブを設置することはできるだけ避けてください。やむを得ずバルブを設置する場合はボールバルブやゲートバルブ等全開状態においてご使用願います。
- 外気と配管内流体との温度差が大きい場合、配管内のガス自然対流の影響を受けやすくなるため、なるべく水平配管に設置してください。

5.2 必要直管長さについて

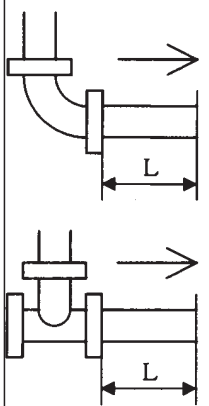
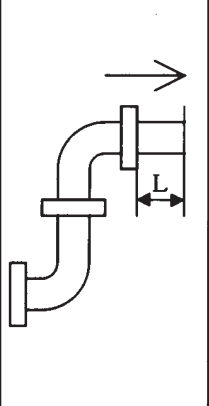
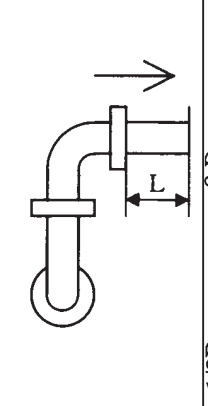
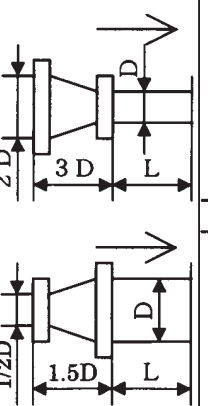
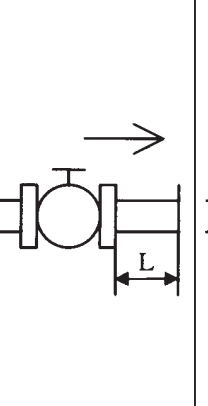
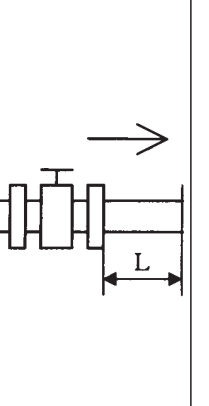


注記

配管にエルボ・バルブ・レギュレーサ等が取り付けられていると、管内の流れは管軸に対して非対称な流速分布になったり、二次流れが生じたりします。一般的な流量計の精度保証条件は、管路内の流速分布が完全に発達した乱流流速分布または層流流速分布を前提としております。したがって、管内の流速分布が完全に発達した乱流流速分布または層流流速分布と異なる場合、精度の良い流量計を用いても大きな流量誤差を生ずる可能性があります。一般に配管形状によって生じた流れの変化は、配管の直径に換算して50～100倍の長さを経てもまだ完全に除去されないといわれています。

尚、サーマルフローメータでは、流量校正時に上下流配管の影響を受けないよう上流側に整流器+直管20D以上、下流側直管5D以上の直管部を設けて校正・検定を行っております。従って、サーマルフローメータを精度良くお使いいただくために必要な最小上下流直管は、次の表に示すとおりです。

必要直管長

					
90° ベント又は ティー 1 つ	同一平面上にある 2つ以上の 90° ベント	同一平面上にない 2つ以上の 90° ベント	収縮管 拡大管	玉形弁 全開	仕切弁 全開
20D	25D	40D	15D	22D	14D

注1) 上記Lを流量計上流側必要直管長とし、管径Dの倍数で表す。

注2) 流量計下流側必要直管長は、上記すべての継手類に対して、5Dとする。

注3) 整流器付の場合には上・下流ともに3D以上の直管部を設けることを推奨致します。

但し、上流側にレギュレーサやバルブがある場合には上流側5D、下流側3D以上の直管部を設けてください。

5.3 検出器の設置



注記

検出器を配管に接続する場合、下記項目にご注意願います。
また、設置場所については、『3.4 設置場所』を参照願います。

- 1) 検出器設置時センサー部に衝撃を与えないように注意してください。センサーパイプを变形させますと、破損または、流量誤差の原因(検出器固有の流量特性が変わるため)となりますのでご注意願います。
- 2) 測定流体の流れ方向と検出器に表示されている流れ方向矢印の向きが一致するように取り付けてください。
- 3) 検出器取り付けに必要なガスケット・ボルト・ナット類は付属しておりませんので、検出器取付前に予めご準備願います。
- 4) 検出器とプロセス配管とを取り付けるボルトが十分締め付けられていることをご確認ください。尚、検出器を配管に取り付ける場合、検出器フランジと取付フランジが同心となるように固定してください。また、ガスケットはガス流路にはみ出さないように注意願います。検出器を偏心状態にて設置したり、ガスケットが流路にはみ出したりしますと流れが乱れて測定誤差が大きくなる場合があります。
- 5) 検出器設置完了後、ライン内圧を徐々に上げ配管にリークが無いことをご確認ください。
- 6) 検出器には、規定値以上の圧力を印加しないでください。

6. 配線

6.1 標準付属ケーブル

変換器～検出器間に使用しておりますケーブルは、弊社所掌の特殊専用ケーブルです。ご注文のケーブル長につきましては納入仕様書を参照願います。尚、ケーブル構造については下図に示します。

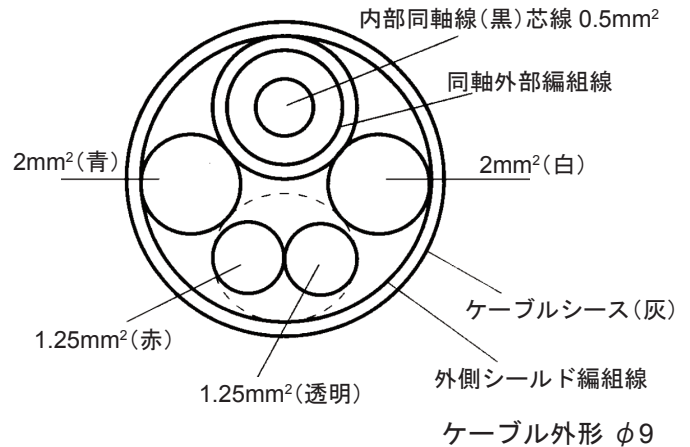


図6.1 ケーブル構造

6.2 配線について

- 1) 検出器の配線は防水構造の7Pコネクタ接続となります。(防水コネクタは、サーマルフローメータ付属品の専用ケーブルに接続されています。)尚、変換器側配線につきましては組み合わせる変換器により異なりますので、組み合わせ変換器取扱説明書を参照願います。
- 2) 検出器コネクタは防水構造となっておりますが、オス/メスコネクタカップリング状態で防水仕様になります。従って、検出器屋外設置の場合は、検出器に専用ケーブルを接続しないまま放置しないでください。万一、コネクタ内部に雨水などが浸入いたしますとケーブルまたはコネクタピンの腐食原因になります。もし、検出器設置後配線までに時間がかかるようでしたら、付属の盲キャップまたはビニール袋などで雨水などから検出器を保護願います。

7. 運転



注記

サーマルフローメータの運転については、組み合わせる変換器取扱説明書を参照願います。

8. 保守



注記

初期運転ならびに運転再開時における、サーマルフローメータ検出器の簡単なチェック方法について記載いたします。尚、変換器の結線およびチェック方法については、組み合わせ変換器の取扱説明書および納入仕様書を参照願います。また、以下のチェックにおいて異常が発見された場合、御面倒でも最寄りの弊社営業所または代理店までお問い合わせ願います。

8.1 保守用機器

本機の保守には、検出器抵抗測定用デジタルマルチメータなどの測定器が必要となります。尚、保守に用いる測定器については、機器性能を維持管理されたものをご使用ください。

8.2 検出器抵抗チェック

- 1) サーマルフローメータをすでにお使いの場合は、電源を切ってください。



注意

- 電源を入れた状態で結線を取り外しますと変換器の故障原因になる恐れがありますので、結線を取り外す場合は必ず電源を切ってください。
- 2) 検出器より検出器～変換器間専用ケーブルのコネクターを取り外します。
 - 3) 下記検出器コネクターピン番号間の抵抗をデジタルマルチメータまたはテスターにて測定します。



注意

- 検出器の抵抗チェックを行う場合、なるべく検出器単体にてチェック願います。(専用ケーブルの抵抗を含まないようにしてください。)
- 4) チェック終了後、コネクターを接続し電源を投入いたします。(チェック完了)

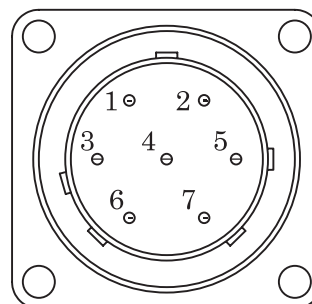


注意

- 屋外で検出器のチェックを行う場合、検出器コネクター部に雨水などがかからないように注意してください。コネクターは防水仕様(オス/メスコネクターカップリング状態で防水仕様になります)ですが、コネクター内部に雨水などが浸入いたしますとケーブルまたはコネクターピンの腐食原因になります。

・検出器コネクターピン間概略抵抗値

コネクターピン番	抵抗値(Ω)	備 考
2－5	40±20※	クロメル／アルメル熱電対抵抗
1－7	0.3±0.2※	細管抵抗
1－2	10 ⁶ 以上	細管－熱電対間絶縁抵抗
2－検出器本体	10 ⁶ 以上	細管－検出器本体絶縁抵抗
2－検出器本体	10 ⁶ 以上	熱電対－検出器本体絶縁抵抗



※印抵抗は、検出器呼び口径によって多少抵抗値が異なる場合があります。

8.3 検出器抵抗異常時の故障内容について

- 1) コネクターピン番2－5の抵抗が∞の場合、熱電対断線または内部配線不良。
- 2) コネクターピン番1－7の抵抗が∞の場合、センサーパイプ破損または内部配線不良。
- 3) コネクターピン番1－2、1－検出器本体および2－検出器本体間の抵抗値が1MΩ以下の場合、熱電対とセンサーパイプ間および内部配線の絶縁不良。



注意

本機が変換器と組み合わせ使用中にトラブルが発生した場合は、上記検出器抵抗チェックおよび組み合わせ変換器の故障探索に従ってください。

8.4 検出器洗浄

サーマルフローメータの測定原理上、検出器センサーパイプ部にダスト・ミストが付着すると指示誤差の原因となるため、センサーパイプ部の洗浄が必要となります。センサーパイプ部の洗浄方法は、電源OFFおよび管内減圧後、検出器をプロセス配管から取り外しアルコールまたはシンナーなどを浸した柔らかい布で注意深く拭き取ってください。尚、センサーパイプを変形させますと流量特性が変わり、指示誤差が大きくなる可能性がありますのでご注意ください。また、破損の原因となりますので、センサー部は本体よりなるべく取り外さないでください。(洗浄の方法は、弊社営業にお問い合わせください。)

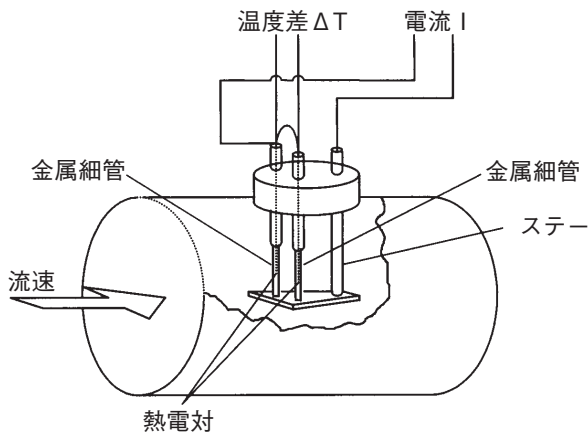
9. 測定原理



参考

1) 測定原理

サーマルフローメータの原理構成を下図に示します。流速検出部は2本の薄肉細管と熱電対で構成され、熱電対は細管の長さ方向の中心に挿入されています。この流速検出用細管の一方に電流を流しジュール熱で加熱し、他方は加熱せずに流体温度と同じ温度条件にします。この流速検出部を気流中に設置した時、気流の流速は加熱された細管より流体が奪っていく熱量の関数となります。従って、発熱量と放熱量が等しいことから加熱・非加熱細管との温度差を熱電対で計測し、一定の温度差になるよう加熱電力を制御すれば、電力量より気体の流速を求めることができます。(この計測方法は一般に定温度差法と呼ばれております。)尚、理論の詳細につきましては10. (1)サーマルフローメータ理論式を参照願います。



2) 動作原理

加熱した金属細管を気流中におくとき、単位時間に金属細管が失う熱量 H は質量流速 ρU と加熱された金属細管と気体の温度差 ΔT の関数となります。

$$H = f(\rho U \cdot \Delta T)$$

一方、金属細管がジュール熱により発生する熱量 W は金属細管電圧 V 、電流 I の積の関数です。

$$W = f(V \cdot I)$$

金属細管が熱的に平衡状態にあるとき、発熱量と流体によりもち去られる熱量は等しいので ΔT をサーボアンプにより一定となるようにすれば質量流速 ρU は電圧 V 、電流 I より求められます。

$$\rho U = f(V \cdot I)$$

流量 Q は配管またはダクトの断面積を A とし、平均質量流速を ρU とすれば、

$$Q = \rho U \cdot A$$

となります。

10. 流速・流量精度について

(1) サーマルフローメータ理論式

1) 流速(m/s)の場合

$$U = A \left(\frac{v}{\Delta T^2 \cdot \lambda^2 \cdot Pr^{2/3}} \right) \cdot R^2 I^4 \quad (1)$$

2) 体積流量(m³/h)の場合

$$Q = B \cdot K \cdot \left(\frac{v}{\Delta T^2 \cdot \lambda^2 \cdot Pr^{2/3}} \right) \cdot R^2 I^4 \quad (2)$$

3) 体積流量(m³/h(nor))の場合

$$Q_{NR} = C \cdot K \cdot \left(\frac{\mu}{\Delta T^2 \cdot \lambda^2 \cdot Pr^{2/3}} \right) \cdot R^2 I^4 \quad (3)$$

4) 重量流量(Kg/h)の場合

$$Q_{重} = D \cdot K \cdot \left(\frac{\mu}{\Delta T^2 \cdot \lambda^2 \cdot Pr^{2/3}} \right) \cdot R^2 I^4 \quad (4)$$

ただし、A, B, C, D : 定数

K : $U_M = K \cdot U_C$ すなわち配管中心
流速 U_C ~ 管内平均流速 U_M 間
の係数

v : 動粘性係数

μ : 粘性係数

ΔT : 設定温度差

λ : 熱伝導率

Pr : プラントル数

R : 細管抵抗

I : 加熱電流

(2) 流速・流量精度について

1) 流速(m/s)の場合

流体温度・圧力・成分に依存する物性値影響項は

$\frac{v}{(\Delta T^2 \cdot \lambda^2 \cdot Pr^{2/3})}$ となり、流体温度・圧力・成分変動の際は精度に影響します。

また、上記項を流体温度・圧力影響項に分離すると次のようになります。

$$\left[\left\{ \frac{0.10133}{0.10133 + P} \right\} \cdot \left\{ \frac{\mu}{\Delta T^2 \cdot \lambda^2 \cdot Pr^{2/3} \cdot \rho_0} \cdot \frac{273 + t}{273} \right\} \right]$$

ただし P : 気体圧力 (MPa)

t : 気体温度 (°C)

ρ_0 : 0°C、1atm 状態の密度

2) 体積流量(m³/h)の場合(使用状況下)

物性値影響項は前記1)と同様となります。なお流量指示の場合、サーマルフローメータが配管内部分流速検出形の流量計であるため、流速分布影響項(K)が精度に影響します。上記流速分布影響項(K)は十分直管長がある場合、理論上配管内Re数に依存し、直管長が十分ない場合、サーマルフローメータ取り付け前後の配管状況に依存します。ただし、サーマルフローメータは流量校正時に上記流速分布影響項(K)を考慮した校正方法を採用しているため十分直管長があれば流速分布影響項(K)を考慮する必要がありません。

3) 体積流量(m³/h(nor))の場合

物性値影響項は $\frac{\mu}{(\Delta T^2 \cdot \lambda^2 \cdot Pr^{2/3})}$ となり、流体圧力影響は無視でき、流体温度・成分変動の際は精度に影響します。流速分布影響項(K)については上記2)と同様です。

4) 重量流量(kg/h)の場合

上記3)と同様です。

■ サービスネット

製品の不具合などの際は弊社営業担当か、弊社営業所までご連絡ください。

営業所については弊社ホームページをご覧ください。

■ 製品保証

弊社ホームページをご覧ください。